



第74号

平成15年2月15日

発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-0323 TEL.029-259-2811
振替口座 宇都宮 3-1632 番
印刷所
南 双葉 印刷

新年を迎えて

会長 高橋 隆 三

会員の皆様明けましてお目出度う御座います。

新年を迎えて、第二十五回大会以降取り組んだ主な事業のご報告と今後の取り組みについて、所信の一端を申し述べ皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

一、同窓会本部事務室の設置

かねてから念願であった事務室の設置が学園のご厚意により実現しました。場所は旧図書館の元学園長室で室内を改装修理して冷暖房も備え、皆様が来園の際の休憩室としての利用も可能です。母校訪問の際は是非ご利用ください。

二、インターネットへの参入とホームページ立上げ

去る十月に開催した常任委員会で本会のホームページ開設をお決め頂き、十二月一日公開致しました。

項目は「同窓会会報、同期会、特筆すべき個人情報、学園情報等」で、今後も随時新しい情報を載せ、本会諸活動の活性化を図りたく思います。

三、鯉淵学園の試験研究支援のための寄付

全国各地の会員の皆様から多くの募金寄せられ、支援に対し二瓶農民教育協会理事長並びに穴戸学園長から感謝の言葉を頂いております。

募金の動きの中で、同期会、支部会の際出席者全員からの一千円募金があります。今までに十一期会、九期親睦会、九州沖縄県人会、二十四期会から寄せられました。

四、会員名簿の発行

当初の計画どおり昨年十二月第十三版

の会員名簿を発行することが出来ました。種々ご努力頂いた事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

今後の課題として

一、鯉淵学園への支援

(1) 学生募集への協力

平成十四年度の入学者数の内、特に農業経営科学科は募集定員八〇名に対し五〇名を割りました。幸い十五年度の推薦入学志願者は前年を上回っております。鯉淵学園の財政は学生納付金によって支えられている事からして、何としても学生数の確保が至上命令でしょう。

(2) 進路指導協力の強化

母校を巣立つ後輩の働く場所の確保について、学園関係者一丸となって全力投球する必要があります。これが学生数の確保に繋がります。

平成十五年度の年明け早々、茨城県の農協で活躍の卒業生の皆さんにお集まり頂き「新世紀の農業・農村が求める人材」についてのご意見をお願いすることにしております。そして鯉淵学園教育に役立てばと考えます。

二、本会財政の強化について

本会の財政の安定化を図るためには会費の納入率を高めることにあります。そのため会報の紙面での納入のお願いは勿

論のこと、支部会、同期会等に役員派遣の際もご協力を訴えてまいりました。更に新入会員に対しては終身会費につき、ご父兄のご支援もお願いして納入率向上に努めました。

幸いにして徐々に効果が現れておりますが、基本的な解決は見いだせないのが現実です。

経費節減も図らなければなりません。支出の大部分が会報発行費で在る事を考えると簡単ではありません。

そこで提案したいのですが、パソコン通信が可能になった現状から「会費未納会員には会報の送付を停止する」と云う案件です。一挙に全未納者適用ではなく階層別も考慮する必要があります。

他に例を見ない同窓会活動を今後も続けることすれば、財政について抜本的な見直しが必要不可欠です。

最後に鯉淵学園並びに同窓会に対し会員の皆様のご協力ご支援を切にお願いする次第です。



新年を迎えてのご挨拶

鯉洲学園長 六戸 弘明

明けましておめでとうございます。早いもので二十一世紀に入って、もう三年目になります。昨年も高橋会長を始め同窓会の皆様には色々ご援助いただき、心から感謝しています。学園の職員一同に代わって、厚く御礼申し上げます。

ご承知のように、これまで学園では学生の確保を最優先の課題として、取り組んで参りましたが、昨年春の入学者は生活栄養科学科こそ四二名と定数を上回る結果でしたが、農業経営科学科は四六名と定員の半数をようやく超す状況でした。しかもとしては正直に申してショックでしたが、同窓会の皆様方も驚かれたかと思えます。

こうした事態を反省して、学園内に改革推進本部を設け、できる限りの対応策を講じ、あるいは精力的に検討を進めて参りましたが、この間の経過は同窓会報を始め、支部会、同期会などいろいろな機会を通じて、お伝えしてきたとおりです。

平成十五年度の入試状況は推薦入学が終わったところで、一般入試を控えているため全体像は把握できませんが、農業経営科学科は四七名、生活栄養科学科は二九名と、両学科共に昨年と比べると一見順調です。ただ、どの学校でも推薦入学者数が増加しているようですから、

あまり樂觀してはいけないともいえます。まだ、三月末まで入試は続きますので、ご協力のほどよろしく願います。

学園内で進められている「環境保全・循環型農業の実証研究」は皆様方からの研究費支援もあって順調に進んでいます。が、近いうちに十四年度の成果も報告書として印刷されるでしょう。また、社会科学系の「新規就農者の参入条件」についての研究も始められます。

ところで、平成十七年は学園創立六十年に当たります。そのため、今年中にはどのような記念行事を行うか、その骨組みを作っておかなければなりません。同窓会とも十分打ち合わせて、原案作りを進めて参ります。

何かと明るい展望を持ちながら、新年を迎えたいと思っていました。が、昨年末に公表された「普及事業の在り方に関する検討会」中間論点整理には驚かされました。そこには学園生の普及員資格試験の受験資格が否定されるような内容が記されていたからです。内容の詳細と学園の意見書などにつきましては、いずれ紹介させていただきます。

ともあれ、新しい年が学園だけでなく、皆様方にとってもよい年でありませう。に御祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

鯉洲学園の教育と研究体制、資格問題など

教務部長 涌井 義郎

新年おめでとうございます。同窓の皆さんにとりまして新年がよい年となりませう祈念いたします。

鯉洲学園は平成七年以来、四年制の専門学校としての教育のあるべき姿を模索し続けています。全国の大学は入学者減少の危機に対処しようと、さまざまな対策を練っていますが、実技と資格を求める若者も多くなっている傾向があることから、実学教育への期待が高まっています。

四年制専門学校である鯉洲学園は、こうした時代背景にうまく適合し、教育の成果を高めていかなければなりません。平成十三年から学生による授業評価（先生の授業の良し悪しを学生が評価する）を取り入れ、授業改善に活用しています。実験・実習の改善に取り組み、より高度な農業技術実習、あるいは実践力のある栄養士養成にと日々改善努力しています。農産物市場実習、畜産実務実習、臨床栄養学実習、農村調査実習、海外実習など、学外に出て現場の今の問題を肌で学ぶ機会も多く設けています。

同窓生の皆さんのご支援があつて、「鯉洲学園総合研究」として二つのプロジェクト研究が立ち上がりました。「環境保全・循環型農業の実証研究」と「若

者新規就農促進教育の研究」です。前者

は有機物資源の循環活用と有機農業技術について、後者は非農家出身青年の就職を実現する道の探索が主な課題です。後者については、具体的に学園卒業生を就農へと導くネットワーク作りも視野に入れていますので、なによりまず同窓生の皆さんにお力を貸していただきたいと考えています。

国は、昨年から農業改良普及事業の見直し検討を始め、今春までにまとめようとしていました。論議の中心は「普及員の削減」「普及員の資質向上」です。後者の論点に関わって、普及員の受験資格が大学院修士課程卒業以上並に格上げされる見通しです。そうなると鯉洲学園が昭和二十三年から持ち続けた受験資格を取り上げられる恐れがあります。昨年末から、学園はこの事態への対処におおわらわです。なんとか受験資格を維持すべく最大限の努力をしています。同窓の皆さんにも全国からご支援をお願いします。

鯉洲学園の学生たちは今もすばらしい青年たちです。同窓生のお子さん、お孫さんも多数が在学しています。今後とも元氣のよい青年を鯉洲学園にたくさん送り込んでください。

鯉淵学園総合研究（環境保全・循環型農業の 実証研究）の十四年度研究成果の中間報告会 及びシンポジウムの開催

環境保全・循環型農業実証研究連絡会委員長
農業経営科学科教授 土崎 常 男

十三年度の同窓会報でお知らせしまし

たように、十三年度から鯉淵学園が一体
となつて、研究期間十〜二十年の長期大
型総合研究（環境保全・循環型農業の実
証研究）が始まりました。それに伴い同
窓生の皆様がこの研究に対する支援をお
願ひ致しました所、多くの同窓生の皆様
から多額のご寄付を戴きました。心から
御礼申し上げます。なお、十三年度の研
究成果は、「十三年度研究成果報告書」
として、ご寄付戴いた同窓生の皆様にお
送り致したとおりであります。

十四年度も引き続き研究を行つており
ますが、十四年度の研究課題は以下の十
二小課題であります。研究は概ね順調に
進行しており、平成十四年十月四日(金)
はその研究成果中間報告会を開催しまし
た。なお、中間報告会と同時に、勉強会
としてシンポジウム（食品・畜産廃棄
物処理の現状と問題点）を開催致し、熱
心な討議が行われました。研究小課題及
びシンポジウムの講演課題は以下の通
りです。

1 十四年度実施研究小課題

- (1) 畜産廃棄物の環境保全・循環的処理及
び利用法の実証的研究（中課題1）
① 家畜排せつ物の堆肥化ならびに処理
方法に関する調査・研究（十三〜十
五年）（肉牛研、畜産農場）
② 施設野菜栽培における完熟堆肥利
用とその効果について（十四〜十八
年）（園芸農場、畜産農場、野菜研、
土壌肥料研、作物保護研）
③ 食品廃棄物の環境保全・循環的処理及
び利用法の実証的研究（中課題2）
④ 栄養管理方法と食堂廃棄物の産出の
実証的研究（十三〜十七年）（調理・
食生活研、学生食堂）
⑤ 食堂廃棄物の有機質資材作製システ
ム構築の分析と課題（十三〜十四年）
（研修科、学生食堂）
⑥ 食堂廃棄物（生ゴミ）の発酵処理物
の野菜育苗用土化に関する実証的研
究（十三〜十四年）（野菜研、土壌
肥料研、学生食堂、園芸農場、研修
科）

2 シンポジウム講演課題

- (3) 環境保全・循環的農作物栽培技術及び
家畜飼育技術の実証的研究（中課題3）
① 環境保全・循環型農業としての野菜
の不耕起栽培に関する研究（十三〜
十七年）（野菜研）
② 鯉淵学園における環境保全型農業の
実態調査（十三年）（作物研、園芸
農場、畜産農場）
③ 茎頂培養による作物ウイルス病の環
境保全的防除法の実証的研究（十三
〜十四年）（生物工學研、作物保護
研）
④ 鯉淵学園における農業・食・環境の
循環システムの構築と分析（中課題4）
① 湖沼におけるアオコの発生状況の調
査研究（十三〜十四年）（生化学研）
② 鯉淵学園における落ち葉、草木灰、
食堂廃棄物（生ゴミ）の年間算出量
及び利用量の調査（十三〜十六年）
（研修科、学生食堂、農場）

物の飼料化
② 代永 道裕（畜産草地研究所）…畜
産廃棄物処理の現状と問題点
最初に述べましたように、この総合研
究は十〜二十年にわたり実施する長期大
型研究プロジェクトであり、その間毎年
約一〇〇万円の研究費が必要となります。
同窓生の皆様が少額でも毎年継続してご
寄付下されば、本研究プロジェクトが成
功し、鯉淵学園を充実・発展させること
になります。どうか継続して絶大なご支
援をお願い致します。

**農民教育協会、
評議員の選任
について**

同窓会推薦の(勸)農民教育協会評議員、
満永正昭氏(千葉4期)が退任され、後
任として石田善吾氏(埼玉16期)が平成
十四年九月二十六日の(勸)農民教育協会の
役員会において満場一致で選任されまし
たことを報告致します。 事務局

“同窓会茨城県農協関係者・ 学園との懇談会開催される”

去る一月二十日(月)一三〇〇〇一六…

三〇時、鯉淵学園同窓会館に於いて、同窓会県農協関係者と鯉淵学園との懇談会が開催された。

学園からは穴戸弘明学園長、涌井義郎
教務部長、山本英治助教(同窓会常任

委員長)、県農協関係者からは須田哲也

J A茨城県各連共通常任監事、新地道哉

J A茨城県信連常任監事を始め五名、同

窓会から高橋隆三会長と三役が出席する。

開会にあたって、高橋会長から懇談会

の開催発意経過と主旨を述べ、穴戸学園

長から、¹⁾現在の学生募集状況

(推薦入学を含む)、「普及事業の

在り方に関する検討会」の報告等

併せてご挨拶をいただいた。

懇談会は倉重一夫副会長の司会、

進行により、出席者からそれぞれ

の立場で、総合農協、信連、厚生

連、単位農協、農業・林業者の現

状と動向、学園についての要望等

を含め報告いただき、懇談では、

系統農協組織の統合の現状、職員

採用状況、学生の応募状況、学生

のJ A就職状況、協同組合に関する

教育、校名等大変有意義な懇談

会でした。



なお、出席された方々は下記のとおり

です。(学園・同窓会関係者は除く)

茨城県J A各連共通常任監事

須田 哲也(16期生)

茨城県J A信連常任監事

新地 道哉(13期生)

J A茨城中央監事

稲川 正夫(13期生)

茨城県厚生連参事

皆川 洋治(23期生)

J Aひたち野経済部長

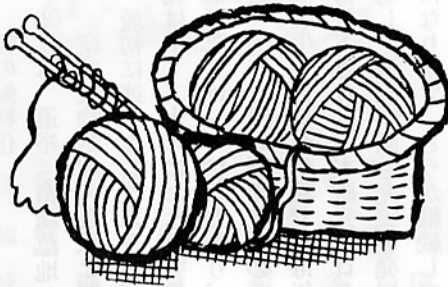
寺田 忠啓(22期生)

林業専業農家

益子 麒一(14期生)

ブルーベリー農家

根本 保夫(25期生)



支部・同期の動向

鯉洲学園同窓会

北海道の集い開催

平成十四年七月十二日(金)十三日(土)有珠郡大滝村北湯沢温泉郷「名水亭」において、北海道支部の集いが開催された。七月八日、十二日に道東中心に学生募集で高校ならびにJAを訪問した関係で、学園ならびに同窓会本部から、杉山博茂教授・山本英治助教授(同窓会副会長兼常任委員長31期)の出席頂いた。出席者総数は三四名であった。

田中幸支部長(13期)の挨拶の後、御兩人から、学園の近況ならびに同窓会本部の運営状況さらには会員名簿作成の進捗状況等を含めた挨拶を頂いた。

4期卒、佐藤存氏の乾杯の音頭により、懇親会に入り、自己紹介による近況報告をして、鯉洲学園同窓生相互の親交を深めた。学園時代の良き思い出に華がさき、また昨今の農業情勢さらには担い手問題など話題は尽きず閉会となった。



二十四期生 九州・沖縄大会開催



平成十四年十一月九日、十日熊本市の菊南温泉において24期生九州・沖縄大会を開催した。(同伴者を含め五一名参加)

開会を前に24期生物故者、佐藤衛、今田芳昭君(山形)、平野方樹君(熊本)の冥福を祈り黙祷を行った。吉森利治実行委員長の歓迎挨拶、高橋隆三鯉洲学園同窓会長より学園、同窓会の状況含めての挨拶があった。大会の協議では、学園試験研究活動支援を行うため大会出席者で寄付金をすることを決議した。

次回開催地については、三年後中・四国において開催する事が決定した。又、大会へのメッセージが、宮島三男、貞先生、モロッコに加藤成一さんをはじめ全国の同期生より多数寄せられた。

懇親会では、熊本名物馬刺しとかかし連根を肴に酒(球磨焼酎)を酌み交わし同期生の親交を深めた。近況報告(自己紹介)のあと九州・沖縄県人による学園時代の思い出「あの日、あの時」を当時の姿に仮装し入学式、寮生活、学生食堂、歌とダンスの会、旅立ちの別れ等寸劇を披露し三十四年前の学園時代を懐かしんだ。最後にカラオケテープにより寮歌を全員で円陣を組んで合唱した。

様一行部支山形県園学淵鯉迎



翌日の名所めぐりは、熊本県農畜産物の直販店、熊本城（全国菓子博）、県伝統工芸館で開催されていた「宮本武蔵と心眼の技」展を見学した。尚、来年のNHK大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」に武蔵の最晩年の地、熊本が登場します。昼食は、田端義雄氏（28期生）経営の焼肉「友宝」で地産地消こだわった焼肉をご馳走になった。そして、午後二時すぎ

熊本空港、熊本駅に向かい三年後の再会を約束しながら散会となった。

文責 吉丸民雄（熊本県）

山形県支部同窓会の開催

拜啓 日ましに秋の深まりを感じる今日このごろとなりました。

さて、山形県支部同窓会開催について、予てより御心配を掛けておりましたが、保科県信連理事長が発起人となり四月に準備会議を開催し、九月七日〜八日天童市紅葉苑に於いて山形県支部同窓会を開催いたしました。

尚、支部同窓会を開催するにあたり同窓会名簿を整理する中で、生前活躍し他界された方が二三名もおり、支部同窓会開催前に出席者全員にて黙祷をささげ、別添資料により支部同窓会を開催いたしました。

また、秋の夜長、農業（農薬）問題、学園での想い出話に酒を酌み交わし、意義の有る同窓会となり次期開催を十六年度開催する事を確認し、学園寮歌を肩を組み声高らかに歌い、盛会に終了した事を報告致します。

文責 山形県支部事務局長 高橋郁夫（22期）



静岡県支部総会

平成十四年八月二十五日

ブケ東海静岡

参加者 一七名

三期〜五十五期までの集まりでしたが同じ場所でも過ごした思いは同じ、なつかしい学園生活に花が咲き、時間のたつのも忘れ過ぎました。



写真説明

前列左より

新関八千代²³、伊井正巳⁵、平石五雄¹⁴、大石道夫³、加藤昭三郎³

鈴木恒雄⁴

中列左より

小川道博²⁶、高橋紀久夫²¹、村田和彦¹¹、東美紀子⁵²

後列左より

池谷智美⁴⁵、後藤雅典⁴⁵、梶浦靖貴⁵⁵、鈴木俊彦²²、羽柴秀一⁵¹

神尾尚宏⁵¹、今村逸雄⁴

長野県支部役員会

長野市内ホテル信濃路にて二五名の役員中、一三名が出席し開催しました。会議内容は、落合壽美男(7)支部長より昨年開催された本部の第二十五回同窓大会の内容報告とともに、学生の募集・就職の世話等の協力、同窓会名簿の発行について報告がありました。また、長野県は次城県に次ぐ同窓生の多い県として、同窓会の活動を活発にしたい挨拶がありました。



写真説明

前列左より 牛山喜文(23)、上沢徳雄(9)、若林 孝(5)、落合壽美男(7)
小池定子(15)、小平 伸(8)
後列左より 林 弘旦(19)、大日方悦雄(10)、宮沢昭男(14)、青木 敏(20)
南雲成一(27)、太田光保(14)

つづいて、牛山喜文(23)事務局長より長野県支部規約の設定について説明し了解を求めた。この規約では、県内を四分に分け、分会の活動に力を入れる体制としました。また、十四年(十五年)の役員構成の案を説明し了承いただきました。県全体の総会は、平成十六年一月に開催することとしました。会議終了後懇親会を開催し、時間の経つのも忘れ大いに交流を深め、最後に寮歌を力強く歌い解散しました。

秋田県南鯉淵学園同窓の集い

秋田県の各地では小正月の史的伝統行事がたけなわです。中でも横手市の雪祭り「かまくら」は全国的に知られております。ようやく除雪作業から解放された二月十六日(土)雪祭り「かまくら」二日目、「横手駅前温泉ゆうゆうプラザ」にて一

昨年について県南鯉淵学園同窓の集いが開催されました。懇談会に先立ち十二時半から世話人代表佐野和男(7期)より経過の報告があり、県南在住者三〇余名にご案内を致したが、都合により参加者は九人であった。また学園の近況については、平成十二年度卒業、真崎修平(54期、田沢湖町)君より語って頂きました。久方ぶりの出合いを祝し乾杯をしたのち、各自の近況紹介がありました。学生募集の協力は佐藤忠道(32期)さんの長女が十四年度生活栄養科学科入学予定であり、二代に渡り向学とのこと、また河村正孝(23期)さんの紹介で平鹿町の「りんご」専業農家の担い手を学園に推薦しているとの報告もありました。

今後の会のあり方として「若い世代」が多く参加できるように同窓の集いが望ましいとの意見もありました。今年の十一月月上旬は秋田県種苗交換会が横手市に

で開催されますので、これを契機に秋田県支部総会を開催する方向で推進いたします。



(出席者名)

佐野和男(7期)、西田貞夫(14期)
武藤恒美(14期)、鷹田道之助(15期)
大沼裕一(18期)、小川一見(19期)
河村正孝(23期)、佐藤忠道(32期)
真崎修平(54期)

岩手支部総会開催

平成十四年十月二十六日(土)に

遠野市「あえりあ遠野」におい

て、岩手支部総会が開催された。

出席者は二六名、学園からは宍

戸学園長、同窓会から住吉副会

長兼事務局長が出席された。議

題は十三年度事業報告、決算報

告、十四年度事業計画、予算案、

支部規約の一部改訂、次回開催

地(気仙地区)などが協議の後、

承認された。また、宍戸学園長

からは学園の現況と学園改革に

ついて、さらに住吉副会長から

は農民教育協会評議員の選出、

同窓会インターネット加入なら

びにホームページの開設、会費

納入状況と会費納入のお願い等

について報告された。懇親会に

おいては、学園生活に戻って、

それぞれの想い出話に華が咲き

始終和やかな雰囲気の中で親睦

を深めることができた。次回開

催での再会を誓い閉会とした。



時の流れを思う

第十九回三期会定期総会

平成十五年の新春を迎えました。本校の先生方、同窓の皆様方のご健勝をお慶び申し上げます。

定期総会・懇親会集合は写真のように「弥栄」の軸を掛けて山口県湯田温泉で、平成十四年十一月五日〜六日、一泊二日で開催いたしました。

昭和二十年終戦の玉音放送を大講堂前弥栄広場で聴いた時は二〇二名の在校生でした。今回の三期会案内一九九名、出席参加二八名でした。終戦から五十七年が経過して、手紙連絡のつかない方、残念ながら鬼籍に入られた方々が三六名おいでになります。

参加者は七十五才以上後期高齢者ですので当然とは思いますが、健康であることの幸を思います。

二日間に亘り晩秋の山道を、前夜は各自在校時代の思いを語り合い、翌日は市内の大内文化、ザビエル記念聖堂見学と、地方文化と地方の味を堪能いたしました。元氣組は地域ボランティア、街おこし、趣味の会や、なかには健康で現役で頑張っておられる方も居られました。遠くは北海道から四国、九州と本校の全国ベースの幅の広さを感じました。

ご承知のように世の中、活動を失ってあります。卒業生の方々、全国で活躍接

点をつくられ活動されることを期待申し上げます。

山口開催世話人(内海一潔、山本英治

藤永一憲、金子純

(文責 金子純)



十八期生同窓会を茨城県で開催

十一月三日大洗(白浜荘)にて、砂田・高橋先生を招待し四十年振りに、お互い元気に再会出来た事を喜びながら、宴会も大いに盛り上がる中、全員で寮歌を斉唱し長時間の宴会となりました。若き学生時代に心が戻り深夜まで続きました。

十一月三日の宴会前に、女子生活科の人達は水戸にて白田先生と、やはり四十年振りに再会し楽しい数時間を過ごしました。先生も御元氣の様子でしたそうです。

十一月四日は白浜荘を出発し、三大公園の水戸偕楽園を三〇分程散歩し、一路学園に向うバス車中にて自己紹介を行いました。四十年間には様々な人生が有りました。

学園案内は、西村・砂田先生にお願いし、酪農場等を見学し途中にて現学園長にお目にかかり、現在の学園の状況等をお話していただきました。

通学路を歩きながら寮の中央にありました水槽タンクを見つけ学生時代の出来事が思い出され、一層なつかしさが込みあげたかと思えます。

昼食も学園にお願い致しまして、いただきました。メニューも大分様変わりしました。昼食後は、友部駅にて解散し、楽しかった二日間でした。

同窓生の皆様今回の出席者四〇名(七〇%)という参加者となりました。数年後には同窓会の予定がありますが、そ

の時は全員御参加をお願いしまして、その時まで御体に留意して下さい。

有坂・石田・森島のご報告と致します。

(文責 森島保勝)



京都支部だよりから

鯉淵の魅力

前支部長 4期 藤井文信

一九四六年と言うと終戦の翌年、当時は食糧難、住宅難、交通難等等、これからのわが国は一体どうなるのかと皆が不安がる暗い世相の中で、「就職は全農が責任をもって斡旋、全寮制で学費・寮費合わせて月三〇円(今の貨幣価値からすると三万円程度か?)」という募集案内だから、わんさと希望者が殺到し、一〇〇人の募集に対し二、六〇〇人も応募者があったものだ。当時の社会情勢からすると大変な魅力であった。

最近の同窓会報七十二号によると、四年制の専門学校とはなったが応募者は定員割れで、卒業生からの応援が求められている。

半世紀も前のことと比較すること自体がナンセンスと言われるかも知れないが、学園に魅力があれば学生は自然に集まるだろう。学園も協会も当然その魅力創出に苦慮されていることと思うが、約六、〇〇〇名の卒業生の「いきさま」も魅力を創る原動力の一つとなるのではなからうか。

およそ十年に涉って支部長の席を汚してきた私には、多くの同窓生の情報に接する機会が多かった。特に農業経営で奮闘されている人たち、養鶏の岡本さんや京野菜トルコギキョウの松崎さんの取り組みについては、総会時に現地を見学し、支部だよりにも紹介したとおりであります。また、ここでの多言は控えるが、養鶏の加藤さん、酪農の安井さん、中西さん達の地元での評価は高く、その「いきさま」は魅力的である。

そして、全国にもこうした魅力ある卒業生が着実に多出して来ていることは紛れもない事実である。諸兄姉のご活躍に期待したい。

徒歩旅行

18期 加藤 紀一郎

鯉学卒業以来四十年程になる。私には内原から歩いて帰った想い出がある。高校卒業後に肺炎を患って半年間の療養生活を送ったあとの鯉淵入学であったため自信をなくしていた体力を試すのが動機であった。夏期実習の酪農場でのトウモロコシの刈取りサイロ詰め作業の終わったあと友人二人に見送られて寮を出発した。足取りも軽く時速六キロで岩間、石岡へとただひたすらに歩いた。さすがに午後になると疲れきてきて鈍り、足も重く腫れてきて豆だらけになる。土浦の荒川沖駅の線路わきの土管を宿にする。諦めて明日は汽車に乗ろうと豆を針でつぶして眠る。ところが朝になるとすっかり足が軽く楽になっていたので気を取り直して再び歩き始めた。それからは同じことの繰り返しで夜になると豆をつぶして休む。三日目に東京に入り神田駅で寝ていると、夜中に駅員に起こされてシャッターを閉められた。日本橋からは東海道五三次。交番で出発証明書を書いてもらって西へ向かう。主食は食パンにマーガリン、白田先生の栄養の時間に計算した四、五〇〇カロリー。箱根峠

トル)で眠ったが、さすがにここだけは蚊に悩まされなかったが寒かった。歩調も時速四キロに固定されてくる。歩くのが仕事である。時々追い抜く車に乗れないかと声をかけてくれるが断ってひたすら歩く。クラクションの音に気がつくセンターライン、居眠りしながら歩いているのである。川へ下りて泳ぎ衣類も川原に抜けておくとすぐに乾いてしまう。浜名湖を過ぎた辺りで同じく徒歩旅行中の人に追いつく。東大生の中川さん。就職も決まり想い出作りに歩いているのだという。ここからは二人旅で学校の宿直室に泊めてもらったこともある。厚底のバスケットシューズにも穴が空き二足目。や々と京都に入ったのは十六日目であった。三条大橋の交番で到着証明書を書いてもらう。大阪へ向かうという中川さんと別れて福知山の自宅に到着したのは十八日目。七六〇キロの旅であった。真っ黒い顔で六二キロあった体重も五三キロになったが八日後に学園に戻った頃には元に戻っていた。若かったなあーあの頃は……

第十期卒業生同窓会報告

学園十期卒業生の第六回同窓会が昨年十一月、加賀温泉郷の一つ柴山町JA施設で、高橋同窓会長を迎えて開催した。出席者は、会員の夫人を含めて二七名で、メンバーの顔ぶれも毎回定着した感もあるが、今回は、はるばる北海道から吉田君(旧姓荒木)が初参加してくれた。

同窓会は、ほぼ二年ごとに定期的に行われ、関東、関西、東北、九州、北陸と回ったが、この間毎回出席していた人が体調を悪くして出席出来なかったり、亡くなった人も出るなど、同窓生もいよいよ老境に入ったことを痛感したものである。



第四回全農肉牛枝肉共励会名誉賞受賞



山家 賢 藏 (宮城 24期)

山家賢蔵さんは、アメリカの農場で開拓者としての精神を学び、北海道で修行を積み、恵まれた自然を求めて金成町に移り住みました。この土地を自分で切り開き、井戸を掘って牛の肥育を始めたのです。最初は五頭だった牛の数も、立派な牛作りをしたいという夢を

持って努力を重ねた結果、現在は五十五頭。常に牛と共にいることで毎日発見があるといい、栗っこ管内では珍しい肥育だけを行う専業農家として経営を成り立たせています。

「牛作りは科学の最先端技術」と力強く話す山家さんはインターネットで血統を調べたり、株や経済の動向も気にしたりと、常に研究・勉強を怠りません。

素晴らしいサシが入った自分の牛が競りで高値がついた時がたまらない。逆に牛のえさとなるワラ上げの作業が一番体にこたえるとか。

因みに、長男賢太郎君は鯉淵学園の三年生で将来の担い手として勉強中です。

平成十四・十五年度会費納入者名簿【報告】

平成十四年五月一日から平成十四年十一月十五日までの払込通知受理分。確認と領収証書代わりの報告です。間違い、ご不審の点はご連絡願います。また、領収証書が必要な場合はご請求ください。○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

◎年度会費

○十一～十四年度分

【茨城県】

④ 稲田 武弘

○十二・十三年度分

【山梨県】

②⑤ 植松 延行

○十二～十四年度分

【北海道】

(2) 上坂 与吉

○十三・十四年度分

【岩手県】

⑬ 留場 栄一

【山形県】

(2) 平塚 秀雄

【群馬県】

⑦ 関口 義明

【滋賀県】

(1) 鶴飼 一彦

【京都府】

④⑧ 梅原 由季子
久下 寛

○十三～十六年度分

【新潟県】

②③ 重野 徳夫

○十四年度分

【北海道】

⑬ 渡辺 巖

【福島県】

④ 佐藤 忠司

【茨城県】

⑩ 市野沢 弘

②⑤

②⑤ 三浦 喜美男

④③

④③ 佐藤 順一

⑤⑤

⑤⑤ 英和 夫

⑤③

⑤③ 村上 隼人

【栃木県】

(1) 橋本 正信

【神奈川県】

③ 奥田 平二

⑤⑩

⑤⑩ 林田 洋子

【岐阜県】

②⑤ 佐々木 教公

【静岡県】

(2) 三浦 篤

【京都府】

②④ 岡井 明美

【兵庫県】

② 正木 浩二

⑩⑩

⑩⑩ 加藤 和夫

⑩⑩

⑩⑩ 奥田 恭夫

⑩⑩

⑩⑩ 近本 仁吉

⑩⑩

⑩⑩ 柴垣 義治

⑩⑩

⑩⑩ 高木 経吉

⑩⑩

⑩⑩ 戸田 義一

⑩⑩

⑩⑩ 森友 俊則

⑩⑩

⑩⑩ 今北 耕司

⑩⑩

⑩⑩ 西浦 英子

⑩⑩

⑩⑩ 吉川 千鶴子

⑩⑩

⑩⑩ 長尾 輝夫

⑩⑩

⑩⑩ 黒坂 勝則

⑩⑩

⑩⑩ 黒坂 和代

⑩⑩

⑩⑩ 橋本 和篤

⑩⑩

⑩⑩ 山本 昌也

⑩⑩

⑩⑩ 近本 昌博

⑩⑩

⑩⑩ 高見 康彦

- ④ 近本昌博
- ⑤ 芝床靖人
- 【島根県】 (2) 長野和夫
- 【長崎県】 ⑦ 尾崎原喜
- 【鹿児島県】 (1) 久保隼人

○十四・十五年度分

- 【北海道】 ④ 梅木亀男
- ④ 荒木良司
- ⑤ 豊田勝則
- (3) 石田為雄
- (3) 村瀬健一
- (4) 高瀬正美
- (4) 田村幸三
- (4) 加納豊造
- 【岩手県】 (1) 工藤義一
- 【宮城県】 ⑤ 熊谷俊
- (3) 高橋文男
- 【秋田県】 ④ 広島実
- ④ 斉藤峰子
- ⑤ 八柳喜将
- 【山形県】 (5) 矢矧儀一
- 【福島県】 ② 山田陽香
- ② 角田初夫

- 【茨城県】 ⑦ 大島重見
- ⑦ 中村信夫
- ⑩ 甲高博雄
- ⑩ 太田幸子
- ⑰ 岡田新生
- ⑱ 森島保勝
- ⑱ 飛田元雄
- ⑲ 沼尻宏文
- ⑳ 大里誠
- ㉒ 藤井ひとみ
- ㉓ 藤井優
- ㉔ 下村俊輔
- ㉕ 選23中村修一
- 選25山口陽一
- 【栃木県】 ⑮ 神長才夫
- 【埼玉県】 ⑲ 鈴木市郎
- ⑳ 稲村道明
- ⑳ 実8三浦清登
- 【千葉県】 ⑤② 鈴木秀貴
- ④ 佐野信次
- 【神奈川県】 ④ 鶴義盛
- 【新潟県】 ⑤ 黒石勇蔵
- ② 前田実入

- 【富山県】 ⑨ 株田秋一
- (1) 島均
- 【山梨県】 ⑲ 根津千恵美
- ⑲ 贊岡正文
- 【長野県】 ⑨ 上澤徳雄
- ⑲ 飯塚ひろ子
- ⑲ 矢崎哲男
- ⑳ 掛川一富
- 【岐阜県】 ① 牧村保雄
- ⑱ 島清重
- ⑱ 水野富郎
- ⑳ 伊藤朱美
- (5) 桑原義道
- 【静岡県】 ⑨ 内山澄治
- ⑳ 鈴木巖
- 【京都府】 ⑰ 池田勝紀
- ⑰ 松崎忠嗣
- 【大阪府】 ③ 野村昭吉
- ④ 越野昭二
- ⑧ 南山隆生
- 【兵庫県】 ⑲ 武久正篤
- (2) 大前穰夫
- ④④ 芦田靖司
- 【島根県】 ⑳ 岡本幹雄

- 【岡山県】 ⑤③ 栗坂公司
- (2) 南茂夫
- (5) 松尾幸男
- 【広島県】 ⑳ 後藤絹子
- 【山口県】 ⑳ 神出登
- ⑳ 佐賀県 ⑳ 井出定治
- 【大分県】 ④ 安倍兵吾
- 【鹿児島県】 ④③ 深水裕信
- 【沖縄県】 ⑳ 池間影清

- 十五年度分
- 【兵庫県】 ⑰ 長峯年正
- 十五・十六年度分
- 【茨城県】 ⑫ 若林均
- ⑳ 日向寺敦
- 十六年度分
- 【埼玉県】 ④⑤ 島田喜昭
- 十六・十七年度分
- 【山形県】 ⑰ 保科周三
- 【東京都】 ④④ 富岡忠明
- 【長崎県】 研7山本信一

- 終身会費
- 【北海道】 ⑳ 坂口利久
- 【岩手県】 ⑰ 熊谷敬一郎
- 【宮城県】 ⑰ 遠藤弘司
- 【茨城県】 ⑨ 佐藤泰蔵
- ⑨ 矢口晃
- ⑲ 益子保
- ⑲ 奈良部恵子
- ⑲ 高橋敏江
- ⑳ 市野沢賢一
- (1) 菊池豊重
- 【栃木県】 ⑪ 篠原久子
- ⑱ 有坂欣二
- ⑳ 戸崎光江
- 【群馬県】 ⑭ 石田キヨ子
- 【埼玉県】 ④⑨ 針谷正治
- 【千葉県】 ⑤⑤ 木ノ下耕吉
- 【東京都】 ⑪ 鹿又ワカ
- ⑲ 井出忠徳
- 【富山県】 ⑨ 仙城律



◎協会寄付金

【石川県】 ⑤⑤ 中野正紀

【福井県】 ⑤③ 奥村昌司

【三重県】 ⑤ 花井巳代治

【兵庫県】 ②⑨ 加藤照道

③⑥ 根岸秀明

【島根県】 ②④ 田村時男

【広島県】 ③ 佐伯得三

【山口県】 ①⑧ 山根邦夫

②④ 陣内栄子

【長崎県】 ①⑧ 糸山興一郎

【大分県】 研18 山村博司

【鹿児島県】 ⑧ 有馬勉

【沖縄県】 ②④ 宮平エミ

②⑥ 長堂照男

③⑩ 赤嶺永信

【北海道】 ①⑨ 伊東薫

【岩手県】 ⑨ 高橋利清

⑩ 加藤謙次

⑭ 高橋貞雄

⑭ 竹原純悦

⑭ 竹原美智子

【宮城県】 ⑭ 遠藤弘司

⑭ 佐藤勘一郎

⑭ 佐藤きくい

⑭ 山家賢蔵

【山形県】 ②④ 飯沢なを子

【茨城県】 ⑪ 志賀睦男

⑪ 西野昭子

②④ 松本幸衛

②④ 染谷一

②④ 染谷しづい

【東京都】 ② 森安一夫

【新潟県】 ⑩ 浦賀武道

⑭ 馬場佳子

【富山県】 ⑨ 仙城律

⑭ 溝口笙子

【石川県】 ⑤⑤ 中野正紀

【福井県】 ②④ 安実正嗣

②④ 安実民和子

【長野県】 ②④ 村田良治

②④ 村田和恵

②④ 河西恒夫

②④ 河西留美子

②④ 宮嶋紀義

②④ 小井土元彦

【静岡県】 ②④ 田代みよ子

②④ 芹沢秋雄

③ 渡辺悦次郎

【奈良県】 ②④ 武田れい子

⑭ 平木郁夫

⑭ 勝部誠

⑭ 勝部裕子

⑭ 田村時男

⑭ 田村律子

【岡山県】 ②④ 平田精一

②④ 平田宏子

【山口県】 ①⑧ 山根邦夫

②④ 原均

②④ 藤沢巖

【愛媛県】 ②④ 岡野幹男

②④ 藤内文雄

④ 黒原春男

【福岡県】 ②④ 陣内栄子

②④ 吉森利治

②④ 中尾信幸

②④ 平野悦子

【宮崎県】 ②④ 矢野修右

②④ 老岐安子

②④ 落丸厚子

②④ 福田文夫

②④ 川元昭司

②④ 川尻昭廣

②④ 折田佳代子

②④ 新城正信

②⑥ 長堂照男



一、平成十四年度版同窓会名簿完成

予てより編集、発行を取り進めてきました平成十四年度版同窓会名簿ができあがりました。予約頂いた方々で、まだ、名簿代金を振り込んでおられない方は、至急手続きをされますようお願い申し上げます。

また、予約されなかった方で、名簿購入を希望される方は、事務局までお問い合わせください。

※都道府県支部長名で、福岡県は金高敏輔（8期）に変更されておりますので、御訂正願います。

終身会費納入区分表

卒業後経過年数	金額(円)
1～5年	40,000
6～10年	37,500
11～15年	35,000
16～20年	32,500
21～25年	30,000
26～30年	27,500
31～35年	25,000
36～	22,500

二、同窓会会費納入のお願い

平成十二年度から農民教育協会への寄付協力依頼があり、同窓生からの温かい支援を頂き、特定公益法人の認定審査ならびに実証研究にも大きく貢献しております。一方で、同窓会会費の納入は減額傾向にあります。この不況の中、大変恐縮ではありますが、年度会費は一、五〇〇円（一期三、〇〇〇円）、終身会費は別表の通りですので、お忘れなく納入の程、宜しくお願致します。

三、同窓会ホームページ開設

平成十四年十二月一日に同窓会ホームページを開設しました。平成十五年一月二十日までに九三二人のアクセスがありました。


同窓会ホームページの基本目標として、常に最新の情報を同窓会の皆様にお届けできるように、最低でも週二回程度の更新をしております。

ただいま、リンクを募集中です。同窓会の皆様で自分でHPを開設されている方、勤務先のHPを紹介したい方などリンクいたしますので応募してください。また、掲示板を設置いたしましたので、有効にご活用ください。

DOUSOUKAI SITE

鯉淵学園同窓会
0000938

- TOP
- 役員
- 会員
- 同窓会情報
- 会報
- 恩師
- 母校より
- 気象
- リンク
- 掲示板
- 最終更新日
- 2003/1/21




農場実習

トピックス

- 農協関係者懇談会開催のお知らせ。(2003/1/9更新)
- 学園長より年頭のご挨拶(2003/1/1 0:00更新)
- つくば会を掲載しました。(2002/12/27更新)
- 収穫祭スナップを掲載しました。(2002/11/23更新)
- リンクを募集します。(2002/11/20更新)
- 学園祭スナップを掲載しました。(2002/11/19更新)

事務局からお知らせ

- 会員名簿2002年版を予約された方、12/2より発送を開始しました。(2002/12/2更新)
- 鯉淵学園は平成17年度に60周年を迎えます。
- 同窓会事務所を開設しました。



- 同窓会に関するお問い合わせはこちらです [事務局](#)
- ホームページに関するお問い合わせはこちらです [同窓会](#)

平成14年10月 会員名簿



4年制農業・生活専門学校
鯉淵学園同窓会